

前回、……(略)……大学における学生教授双方の無気力さに対して一つの警告がなされました。しかし、……(略)……改善に向けての行動を起こした学生は教授はいつたいいかりいたでしょう。問題意識を失った大学はもはや「崖っぷち」状態にあるといえます。しかし、このあと一步の「崖っぷち」状態で踏み留まり、この状態を脱しなければなりません。そのために何が重要なのか。今こそ学生教授一人一人自覚し、さらなる飛躍を  
目指そう。

## おわりに―名大祭の未来―

名大祭は、約四〇年前から現在にいたるまで、同じ名古屋大学において同じ名称で繰り返して行なわれてきた行事ではありますが、一つとして同一内容のものはありません。それは、少なくとも名大祭という場が、それぞれの時代の学生にとって自己表現の場として受けとめられていることを示しているといえます。

本書では、便宜的に一九六〇年代、七〇年代といった形での時期区分を行ないましたが、結果的にはそれぞれの時代ごとにおける学生たちの自己表現の方法・内容を一定程度描くことができたのではないかと考えています。

第一章でも紹介しましたが、二〇〇二（平成一四）年の第四三回名大祭パンフレットには、「名大祭は非日常的な空間を創出する」という趣旨の本部実行委員長のあいさつがありました。実は、これと同じような趣旨の指摘は、第三一回（一九九〇年）名大祭パンフレットにも掲載されています。すなわち、名大祭が「単なるばか騒ぎの場というだけではない」としたうえで、「祭は日常の細かい規則などというものを忘れ、楽しく非現実的な空間を創りだすことに意義がある」とされているのです（『第三一回名大祭パンフレット』）。こうした考え方は、一九六〇〜七〇年代における学生の名大祭像とは明らかに異なっているといえます。しかし、この相違については、その良し悪しを論じるべき性質のものではないと考えます。

二〇〇一年度で開催された第四二回名大祭の本部実行委員会委員長は、パンフレットのなかで次のように述べています（『第四二回名大祭パンフレット』）。

……（略）……名大祭も、時代の流れの中で良くも悪くも変貌を遂げてきました。近年の名大祭は内容も無思想化し、ただ娯楽性を求めただけのお祭り騒ぎと受け取られるかも

しれません。しかし、どちらが名大祭としてあるべき姿なのかは誰にもわかりません。どちらにもそれぞれ良いところがあるので。かつての名大祭には確固とした目標があり、一致団結してそれに向かうという強さがありました。近年の名大祭には万人が気軽に集い、そのエネルギーを結集し、参加者皆が交流できる場があります。

この指摘のとおり、「名大祭とは、こういうものでなければならぬ」といったような固定された名大祭像があるわけではありませんし、また、そういったものがある必要はないと思います。ただし、「確固とした目標」があることと「参加者皆が交流できる」ことは、必ずしも二者択一の問題ではないと考えられます。さらに、名大祭という場は、名古屋大学を地域社会に公開し、地域社会と大学の交流を行なうには最適な機会となりうることは否定できないと思います。その点から考えると、名大祭のあり方にはある程度の規範が必要であるということになるのではないのでしょうか。

本書は、その規範を明示することを目的としているわけではありません。そうした規範は、名大祭本部実行委員会を中心とした本学の構成員が知恵を出しあって創り出していくものだと思います。その際、本書で取り上げた名大祭の歴史のなかから何らかのヒントを得ることができるとは思いません。

## 引用文献・主要参考文献

- 名大祭本部実行委員会編『名大祭（プログラム）パンフレット』（各回、一九六〇～二〇〇二年）
- 「名大祭実施結果報告書」（第二九回以降、一九八八～二〇〇二年）
- 「中日新聞」一九九九年四月二十九日付
- 名古屋大学史編集委員会編『名古屋大学五十年史（通史二）』（名古屋大学、一九九五年）
- 『名古屋大学学生便覧』（各年度版、一九五〇～二〇〇二年）
- 日高六郎編『一九六〇年五月一九日』（岩波新書、一九六〇年）
- 名古屋市総務局調査課編『伊勢湾台風災害誌』（名古屋市、一九六一年）

著者略歴

山口 拓史（やまぐち たくじ）

一九六二年 兵庫県生まれ

一九九四年 名古屋大学大学院教育学

研究科博士課程（後期課程）単位取得

退学

現在 名古屋大学史資料室助手

専攻 高等教育史

名大史ブックレット7

名大祭——四〇年のあゆみ——

二〇〇三年三月三十一日 第一刷発行

著者 山口 拓史

編集発行 名古屋大学史資料室

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

電話 〇五二（七八九）二〇四六

印刷所 株式会社 ク イ ッ ク ス

〒456-0004 名古屋市熱田区桜田町一九一〇

電話 〇五二（八七二）九一九〇





表紙写真：第43回名大祭「模擬店ストリート」風景  
(名大祭本部実行委員会提供)